

令和8年度 学校経営の重点

真名子小学校は、明治6(1873)年8月1日、円満寺にて「日就学舎」として開校以来、真名子地区とともに歩んできました。平成23(2011)年10月1日の栃木市との合併以降も、地域の方の指導や援助を受けながら、「地域とともにある学校づくり」を実践してきました。

本校の児童は、素直で礼儀正しく勤勉で、友達を受け入れ、よさを認めることができます。

よって私たちは、自分たちが住んでいる地域を知り文化に触れることで、ふるさとを誇りに思い、大切にしていこうという気持ちを高めるとともに、つないでいこうという思いを育みます。

さらに、「ふるさと真名子」の文化を「ふるさと学習」として学び、自己の生き方について考えていくためには、地域と連携した取組が必要だと思えます。

以上より、「ふるさと学習」を軸とした教育を行うために、本年度の学校運営の重点を

「ふるさと真名子」を子どもの心に刻む教育

とし、以下の2項目を実践します。

1 「ふるさと真名子」の文化を継承し創造する児童を育てます。

- 生活科や総合的な学習の時間は「ふるさと学習」を柱とし、地域の人や歴史・文化・伝統・特色等と関連づけた学習を行い、自ら地域社会に関わろうとする気持ちを高めます。
- 「ふるさと民話クラブ」「絵手紙クラブ」「オカリナクラブ」の3つの文化系クラブを実施し、地域の方に教えていただくことで、「ふるさと真名子」の情緒に直接ふれ、感受性を高めます。
- 真名子の旧所名跡を訪ねる「ふるさと交流ウォークラリー」を実施し、長く続く「ふるさと真名子」の伝説や民話、史跡を学ぶことで、郷土愛を深めます。
- 「ふるさと真名子」のお囃子を地域の方と演奏し、ふるさとの文化を継承すると共に、大切にしていこうとする気持ちを高めます。

2 児童が地域の一員であることを実感できる機会を作り、地域の方に感謝する気持ちを高めます。

- 大宮神社清掃や地域の方との交流を通して、地域への関心を高めます。
- 学習活動に地域学校ボランティアの力を積極的に取り入れ、「ふるさと真名子」のよさに気付かせると共に、地域の方への感謝の気持ちを育てます。